

ナショナリズム復興の中の文化遺産 アジア・アフリカのアイデンティティ再構築の比較

2009・2010年度 日本私立学校振興・共済事業団学術研究振興資金

【研究の目的】

アジア文化遺産研究とナショナリズム研究を結合させ経済面でのグローバル化が進行することへの反動として文化的なナショナリズムが多くの国々で復興する現代において、アジア・アフリカ諸国の文化遺産がどのように扱われ、いかなる新しい意味や価値を国家によって付与されているのかを再検討する。

【研究の背景】

アジア文化研究所の研究蓄積：①世界的な注目を集めているアンコール遺跡研究の現代的視点＝文化遺産を介して、グローバル化に伴う「ナショナリズムの復興」と地域社会の「アイデンティティ再構築」を分析。②ナショナリズム研究＝植民地支配下で形成されたアジア・中東諸国のナショナリズムとポスト・コロニアル時代に再構築されるナショナリズムの比較研究（『上智アジア学』既刊等で特集）

【研究分担】

本研究所所員の専門分野を活かしたアプローチ： 考古学、歴史、宗教、人類学、政治学等

現地調査および一次史料調査を生かした比較の視点： カンボジア、ビルマ、フィリピン、インドネシア、インド、エジプト、アルジェリア、モロッコ、アフガニスタン

研究成果

シンポジウム開催 Cultural Heritage in the Resurgence of Nationalism

2011年11月21日（土） 於2号館508

Keynote Address Validation, Resistance, and Exclusion: Neo-nationalist Cultural Heritage in a Globalized World by Prof. Neil Asher Silberman (Univ. of Massachusetts Amherst, USA)
Presentation and Discussion From Colonialism to Pan-Arab Nationalism: The Roman Heritage in Algeria Today by Prof. Nacera Benseddik (Ecole Supérieure des Beaux-arts, Algeria) 他

シンポジウムの詳細や研究成果（論文）を載録した**研究報告書（2011年3月刊行）**は、アジア文化研究所のHPからダウンロードできます。ぜひご覧ください。

上智大学アジア文化研究所HP  出版物  その他の研究所出版物一覧

<http://www.info.sophia.ac.jp/iac/publish/other.html>

*研究の経過および主たる研究活動については、2009・2010年度に開催された研究機構フェスティバルにて発表しています。

研究代表者 私市正年（研究総括）

共同研究者 赤堀雅幸、川島緑、小牧昌平、寺田勇文、
根本敬、シリル・ヴェリヤト、福武慎太郎、
丸井雅子（以上アジア文化研究所所員）